

〈解答〉

- ① 1 通信の手段の革命
2 A (最初) 世界を (最後) る能力 (完答)
B 知的レベル
3 〔例〕 私たちが生活していく上で、あらゆるものに労働が必要とされる (29字)
4 工

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 本文の最後の一文に、「情報革命は通信の手段の革命であって、生活や労働を変える革命ではない」とあるのに注目する。筆者は、「情報革命」が「人間の新しい可能性を開いていく」ものではあるが、その範囲は通信手段に限られており、過大評価してはならないという主旨のことを本文で述べている。
- 2 傍線②の八行前から始まる、連続する二文に、「人間の知的レベルを上げなければ、情報を有効に使えない」「技術を使いこなすだけでなく、世界を広い視野で見、将来を深く洞察する能力が不可欠」とあるのに注目する。つまり、情報を有効に使う能力を獲得するには、「世界を広い視野で見、将来を深く洞察する能力」を身につけることで、「知的レベル」を上げることが必要だと述べているのである。
- 3 傍線③の二文後で、「パソコンを作る人、それを運ぶ人、運ぶ道路(トラック)や鉄道(貨車)を作り整備する人、その資材を作る人、その原料を掘り出す人」など、机の上ではできない仕事の例を挙げた上で、そうした労働は「決してなくなることはありません」「私たちの生活の中で必要とする、食べ物も住宅も着物も電気も、あらゆるものに労働が必要」とあるのに注目する。つまり、情報化社会になれば、すべての仕事が机の上でできるようになるという考えが間違いである理由について、机の上でできる仕事以外にも、さまざまな労働が私たちの生活には必要だからだと筆者は述べているのである。
- 4 第二段落の最後の一文に、「個々人が情報に埋もれず、情報を有効に使う能力が、二一世紀には強く望まれている」と筆者は述べている。同じ内容が、エで説明されている。